



ナガコンブの樹脂含浸標本展示 —フジッコ株式会社の場合—

北山 太樹

異説はあるものの、国内最長の海藻はナガコンブ *Saccharina longissima* ではないかと思われる。宮部 (1902) が「丈ケ頗ル長ク五尋ヨリ七尋ヲ通常トシ稀ニ十二尋以上ニ達スルコトアリ」(9 ~ 12.5 m (~ 21.5 m)) と記載して以来、ナガコンブの長さは「四〜一二メートル、まれに二〇メートルに達し」(新村 2018) のように書かれることが多い。さらに、昨年逝去された昆布研究家川嶋昭二 (1927–2020) 畢生の書『日本産寒海性コンブ類の形態と分類』によれば、宮部の遺稿 (未発表) に「3.2 ~ 10 m, まれに 24 m まで長く」とあるらしい (川嶋 2012)。このようにひたすら長くなる進化を遂げたナガコンブの実物を展示することは、褐藻の特殊性や多様性を示すのに適しており、筆者も長年挑戦し続けているが、その実現には標本製作や展示スペースなど物理的な困難を伴い、実例は多くない。

フジッコ株式会社は、1960 (昭和 35) 年に昆布製品を販売する「株式会社富士昆布」として創業し、昨年 60 周年を迎えた昆布と豆の食品会社である。本社を神戸市に置くが、今年 4 月、首都圏での情報収集と営業展開を目的に文京区の江戸川橋公園そばに東京オフィス「東京 FF センター」を開設した (図 1)。その入口につくられたギャラリーに、フルサイズのナガコンブが常設展示されたので紹介する。

このナガコンブは、昨年夏に北海道霧多布で浜中漁業協同組合の協力のもと採取されたもので、全長 8 m に達する藻体を活かすため、吹き抜けの壁を背に直立した状態で設置された (図 2)。藻体は押し葉ではなく、「樹脂含浸」と呼ばれる処理が施されている。この長さの藻体を切断することなく樹脂で固めることは容易ではないが、本誌 61 巻 (北山 2013) で紹介したノウハウを持つ国陽工藝が製作を担当した。長大な海藻を展示すると照明が足りずにどうしても暗くなる部分が出てくるものであるが、この展示では枠内を縁取るように LED 照明を這わせることにより、全身をむらなく明るく浮き上がらせることに成功している。これまでにない工夫である。リシリコンブとラウスコンブも並べられ、映像展示にはコンブの種類や生態や分布についての解説も用意されている。また、昆布採取に使われる竿を引っ張ってその重さを体感するコーナーでは、昆布漁の過酷さを知ることができる (図 3)。

同社ダイレクトマーケティンググループの新村剛課長によると、当初はとろろ昆布製品を主力としたが、昆布に豆を組み合わせた製品の開発から「おめさん」シリーズが始まったそうで、現在では昆布と豆の二本立てとなっている。豆についての展示も併設されている。大人はもちろんのこと、これから顧客となる子供たちに昆布と豆の美味しさ、面白さを伝えることを狙い企画されたとのことである。なお、新村氏



図 1–3. フジッコ東京 FF センター。1. 外観。路上からもナガコンブがみえる (矢印)。2. 吹き抜けのエントランス・ギャラリーに展示された昆布の標本、左からナガコンブ、リシリコンブ、ラウスコンブ、リシリコンブ。3. ナガコンブの収穫の苦労を体験できるコーナー。竿で引き揚げた昆布の重量が表示される。

は本会会員の鹿児島海藻学者新村巖先生のご令息である。

最後に、展示を案内してくださったフジッコ株式会社の新村剛氏と胡麻崎征徳氏にお礼を申し上げる。

引用文献

- 川嶋昭二 2012. 日本産寒海性コンブ類の形態と分類. 生物研究社, 東京.
北山太樹 2013. 海藻の透明樹脂封入・含浸標本—国陽工藝株式会社の場合—. 藻類 61: 159–160.
宮部金吾 1902. 昆布科. 北海道廳殖民部水産課 (編). 北海道水産調査報告 巻之三, 昆布採取業. pp. 1–60. 北海道廳, 札幌.
新村出 編 2018. 広辞苑第七版. 岩波書店, 東京.

(国立科学博物館)

【フジッコ株式会社東京 FF センター】

所在地: 112-0013 東京都文京区音羽 1 丁目 26-16. 交通: 東京メトロ有楽町線江戸川橋駅 1a 出口より徒歩 2 分. お問い合わせ先 (経営企画部) Tel: 078-303-5921 (経営企画部). URL: <https://www.fujicco.co.jp>